琉球新報　2014年（平成26年）8月20日　水曜日

アジアの高校生が民泊

伊江 研修で水問題学ぶ

島の水問題を学んだアジアユースプログラムの参加者と受け入れ家族ら＝16日、伊江村の「湧出」展望台

【伊江】日本やアジアの高校生が沖縄に集い、環境問題などを学ぶ「2014年度アジアユース人材プログラム」（県主催）の一行が15日、伊江村を訪れた。

アジア13カ国から27人、県内14人（高校6校）、県外14人（12県）の計55人が参加。同プログラムは4日から22日まで行われ、同村では2泊3日の日程で、17軒の民家で民家体験泊（民泊）を行った。

一行は村内の水問題を学ぼうと、昔から利用された村指定有形民俗文化財の「マーガ」や「ミンカザント」を見学。伊江島観光協会の金城盛和会長から、現在も飲料水として使用されている水源地「湧出（ワジー）」について説明を受けた。

青森県から参加した八戸工業大学第二高校の岩倉花帆さん（2年）は「民泊を通して島の様子を学ぶ良い機会になった」と語った。

カンボジアから参加したパウ・パンニャリートさん(17)は「私たちの国は自然環境や水質が悪く、日本や沖縄の素晴らしい環境に感動した。海もきれいで受け入れ民家も優しく接してくれて楽しい」と笑顔で話した。

一行はJAおきなわ伊江支店の夏祭りも楽しみ、伊江島牛に舌鼓を打った。

（金城幸人通信員）